

医学群3学類合同演習の支援について

森本 喜代子、嶋村 玲子、郷田 規久子

筑波大学医学系技術室 医学教育企画評価室(PCME) カリキュラム担当

概要

筑波大学医学群では、チーム医療・専門職連携の重要性を学ぶ事を目的に、医学類3年・看護学類4年・医療科学類4年の学生を対象に、ケア・コロキウム(チームワーク演習)という演習(必修)を行っている。3学類混成の7~8名の小グループで、患者や家族の支援に関するシナリオを基に、ケースの問題点、解決策等について討論し、全体発表を行う。この演習についておよびその実施のための技術職員の支援業務を、2009年度を事例に報告する。

はじめに

- 近年高齢化に伴う慢性疾患罹患者の増加により、疾患の治療だけでなく、生活面・精神面の支援を含む継続的な医療の提供が求められるようになった。そのため複数の専門職が緊密に連携し、患者を多様な視点で捉え、質の高い医療を展開できる医療者育成の必要が生じた。
- 医師・看護師・臨床検査技師を養成する医学群では、このような医療者育成を目指し、2006年より、「ケア・コロキウム」を実施しており、2010年で6回目となる。
- PCME※カリキュラム担当に所属する技術職員は、本演習実施のための様々な準備を、コーディネーター(科目責任者)の指示のもと行っており、この演習の内容とその支援業務について、2009年度実施例をもとに報告する。

※PCME:医学群における医学教育全般について、プログラムの企画・実施・評価等を担当する部署。教員13(専任2名) 技術職員18(カリキュラム担当7実習担当11)名で構成される。ケア・コロキウムの支援は、そこの業務の一つである。

時間割

	12月1日 火	12月2日 水	12月3日 木	12月4日 金	12月7日 月
1	8:40 ~ 9:55		グループ学習		
2	10:10 ~ 11:25	グループ学習	質問タイム		
3	12:15 ~ 13:30	オリエンテーション	質問タイム	グループ学習	全体発表会 総括
4	13:45 ~ 15:00	アイズブレイク	グループ学習	グループ学習	レポート作成
5	15:15 ~ 16:30	コアタイム1 ~16:45 90分間	コアタイム2 ~16:45 90分間	グループ学習	
6	16:45 ~ 18:00	自己学習	自己学習	グループ学習	まとめのワーク

シナリオと教材・配布書類

○シナリオ

学生は、以下の8種のシナリオの内、班に割り当てられた1つを用いて討論する。
「乳がんの初発症例」 「白血病初発時11歳児とその両親」
「初発の統合失調症患者とその家族」(映像シナリオ有)
「脳出血患者における生命の危機状態から慢性期のケア」
「慢性疼痛を訴える長期療養高齢者の療養生活と家族介護者の生活の支援」
「胃がんと末期患者の在宅での看取りに関する事例」(映像シナリオ有)
「在宅療法を開始した脳梗塞後遺症の67歳女性と介護を担う79歳の夫」
「子どもが欲しいと願う夫婦の不妊治療の終止をめぐる意思決定支援」

○教材シート・アンケート

学生はコアタイム等で討論し、学んだ内容を明確にするため、シート類に記録をする。学生の学習効果や、学生・チューターの意見を得るため、アンケートを実施している。

○学生への配布書類

1.要項 2.事前アンケート 3.振り返りシート 4.シナリオ 5.コアタイム提出シート 6.グループ討論報告用紙 7.学生によるコース評価 8.事後アンケート 9.レポートの表紙

○チューターへの配布書類

1.要項 2.チューター連絡会資料 3.シナリオ・チューターガイド 4.コアタイム名前・座席確認シート 5.コアタイム学生評価シート 6.チューターアンケート

演習の内容

目的

異なる専攻の学生同士が、互いの専門性や視点の相違に対する理解を深め、コミュニケーション力、パートナーシップを育成することを目的とする。

対象学生と担当教員

【対象学生】学生237名(医学類105 看護学類88 医療科学類44)
一班 7~8名(医学2~3 看護2~3 医療1~2)計32班

【コーディネーター】教員5名(医学3 看護1 医療1)

本演習科目の教育方針を決定し、実施内容を企画する。

【シナリオ作成者】教員8名(看護7 医療1)

シナリオと、チューターに学生への助言案内をするチューターガイドを作成する。質問タイムで学生の質問に回答し、発表会で総括講義を行う。

【チューター】教員35名(医学5 看護21 医療9)

2回のコアタイムの際班に同席し、専攻の異なる学生が多角的な視点から活発に討論できるように助言する。

【支援職員】技術職員3名(PCMEカリキュラム担当)

事前事後を含む演習実施のための準備を行う。

学習項目内容

医師、看護師、臨床検査技師が連携し、医療現場における問題をチームとして解決するための討論を行う。医療現場を想定したシナリオをもとに、少人数の班による討論を行い、その解決策を提示する。

<オリエンテーション>

演習の目的、スケジュール、討論の仕方、評価等についてコーディネーターが学生に説明する。



オリエンテーション

<アイズブレイク>

初対面の学生同士が打ち解け合えるよう、班ごとに自己紹介をし、チーム名やルールについて話し合い決定し、模造紙にまとめてチューターに発表する。



コアタイム

<コアタイム>

各班にチューターが1名同席し、学生はシナリオのケースについて専門職や患者の立場から討論を行う。

<グループ学習>

学生のみでケースに関する検討を行う。

<質問タイム>

シナリオ作成者が該当班を巡回し、学生の質問に回答する。

<全体発表会>

32班が2会場に分かれて行う。シナリオ(班)ごとに進行する。

<まとめのワーク>

発表会後、学生は班ごとに集まり、チームワークをよくなるためにはどうすればよいのかについて話し合い、パワーポイントにまとめる。

<レポート作成> 学生全員が2ページ程のレポートを作成する。



全体発表会

技術職員の支援業務

業務	詳細
教員配置調整	シナリオ作成者・チューターへの依頼書配布、日程調整
教員の会合 学習項目別 日程調整	コーディネーター打合せ・シナリオ検討会・初任チューター説明会・チューター連絡会・コアタイム・質問タイム・総括・コーディネーター反省会・ケアコロキウム報告会の日時調整、開催場所・日程の予約と通知、資料・教材作成、会場設営・資料配布、直前の連絡メール配信
演習用教材 準備	ケアコロキウム要項(班分け名簿・ゼミ室別班分け一覧・発表会進行表作成)・シナリオ・チューターガイド・シート類・アンケート類の印刷と設定毎の配布、映像シナリオ(DVD)作成(担当者(シナリオ作成者・模擬患者※・コーディネーター)の日程調整・打合せと撮影準備・撮影・映像の編集とDVD焼増し・視聴案内書作成配布・視聴トラブルへの対応・発表会場での視聴確認)、班毎の発表pptファイルをUSBメモリで回収し、発表会場別のノートパソコンにスキャン後コピー・展開確認
教室関連の 準備 学生への 通知等	オリエンテーション・アイズブレイク・グループ学習用講義室ゼミ室の予約・日程集合場所通知 覧と班分け名簿を各学類掲示板に掲示、オリエンテーション・発表会会場の班ごとの座席表を作成し各当日会場に掲示(初日は班分け名簿も掲示)、教室(講義室・ゼミ室)の設営と班・演習内容別の資料・筆記用具等の配布・掲示、提出書類等の回収場所準備と回収、教室の復旧作業
書類回収・集計	シート・アンケート等回収、集計結果一覧作成、結果の教員への通知

※ 模擬患者:医療面接の演習等の際、学生の相手になって患者役を演ずる者

考察

- ケア・コロキウムのような専門職連携教育のプログラムを実施している大学は全国的にまだ多くなく、本演習は先進的な取組みである。この演習は、専攻の異なる3学類の学生が同時に演習をするため、教職員を含め、参加人数は非常に多くなる。そのため教員の日程調整や、複数の学習形態での進行内容に合わせた多量の書類の作成・配布は、細心の注意を要する膨大な作業となる。このような中、PCMEカリキュラム担当技術職員の行っている支援業務は、演習実施において必要不可欠な役割を果たしている。
- 他大学との連携が強化され、2010年度より東京理科大学5年生(2010年は74名・教員9名)が、本演習に参加することになった。また筑波大学医学類は、地域の医師確保のため、今後入学定員増の方針が打ち出されている。そのため今後益々規模が拡大し、運営のバックアップ体制がさらに重要となってくると考えられる。
- これからも現場での経験やアンケート結果を踏まえ、業務のスキルアップを図るとともに、PCMEカリキュラム担当内での連携を深めることにより、ケア・コロキウムの発展に寄与していきたい。